



2022年9月期 決算短信(日本基準)(非連結)

2022年11月11日

上場会社名 株式会社篠崎屋

上場取引所 東

コード番号 2926 URL <https://www.shinozakiya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実 TEL 048-970-4949

定時株主総会開催予定日 2022年12月20日 有価証券報告書提出予定日 2022年12月21日

配当支払開始予定日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年9月期の業績(2021年10月1日~2022年9月30日)

(1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年9月期	2,791	7.7	60		60		94	
2021年9月期	3,022	4.9	36	1.5	36	5.0	13	21.3

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円銭	円銭	%	%	%
2022年9月期	6.67		8.5	4.3	2.2
2021年9月期	0.92		1.1	2.5	1.2

(参考) 持分法投資損益 2022年9月期 百万円 2021年9月期 百万円

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円銭
2022年9月期	1,352	1,061	78.5	75.00
2021年9月期	1,491	1,156	77.5	81.67

(参考) 自己資本 2022年9月期 1,061百万円 2021年9月期 1,156百万円

(3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2022年9月期	79	16	20	465
2021年9月期	49	14	20	548

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭	百万円	%	%
2021年9月期		0.00		0.00	0.00			
2022年9月期		0.00		0.00	0.00			
2023年9月期(予想)								

(注) 2023年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当については、業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

3. 2023年9月期の業績予想(2022年10月1日~2023年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っていません。なお、情報開示につきましては既存店舗等の情報を月次で開示するとともに、第2四半期累計期間及び通期の見通しにつきましては分かり次第、開示してまいります。

注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	: 有
以外の会計方針の変更	: 無
会計上の見積りの変更	: 無
修正再表示	: 無

(2) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年9月期	14,436,600 株	2021年9月期	14,436,600 株
期末自己株式数	2022年9月期	278,800 株	2021年9月期	278,800 株
期中平均株式数	2022年9月期	14,157,800 株	2021年9月期	14,157,800 株

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】4ページ、「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	3
(4) 今後の見通し	4
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	4
3. 財務諸表及び主な注記	5
(1) 貸借対照表	5
(2) 損益計算書	7
(3) 株主資本等変動計算書	8
(4) キャッシュ・フロー計算書	10
(5) 財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(会計方針の変更)	11
(持分法損益等)	11
(セグメント情報等)	12
(1株当たり情報)	14
(重要な後発事象)	14

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当社は、消費者にとって価値のある商品づくり、人づくり、店づくりを目指し、「よりいいものをより安く」提供し、「三代目茂蔵」のブランド力を強化、確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

当事業年度において、商品については、引き続き「健康」をキーワードに「茂蔵オリジナル商品」を強化してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響、物価高騰の今後の対策として、顧客数の確保を第一に取り組んでまいりました。

当事業年度の売上高は2,791,296千円(前事業年度比7.7%減)、営業損失は60,831千円(前事業年度は営業利益36,501千円)、経常損失は60,807千円(前事業年度は経常利益36,714千円)、当期純損失は94,395千円(前事業年度は当期純利益13,056千円)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(小売事業)

当セグメントにおいては「よりいいものをより安く」をコンセプトに「三代目茂蔵」ブランドのクオリティ向上を推し進めております。

当事業年度におきましては、様々な雑穀を原材料に「茂蔵オリジナル商品」の開発強化をすすめ健康ブランド向上に努めました。具体的には弁当・いなり・太巻き・総菜・菓子類等のカテゴリーで商品開発を推し進め、開店から12時までの時間帯に開催している「朝市」等で顧客認知度向上に努めることにより健康志向の高い顧客来店頻度向上による顧客数の増加を図ってまいりました。

これらにより1店舗平均の顧客数は前事業年度比101.2%となりました。時間帯別では「朝市」開催の開店から12時迄は同103.2%となりましたが、17時から閉店までは同99.4%となりました。また顧客単価につきましては「朝市」等での価格見直し等の影響もあり同97.4%となりました。

店舗につきましては、毎週実施するリモート会議において販売スタッフと情報共有を徹底することにより1店舗あたりの生産性向上を目指しました。

以上の結果、小売事業の売上高は2,418,009千円(前事業年度比10.7%減)となりました。セグメント利益(営業利益)につきましては、収益改善の見込みの低い9店舗閉店を主要因とした売上高の減少及び仕入価格の上昇を販売価格へ転嫁する時期を慎重に検討した結果、「よりいいものをより安く」のコンセプトのもと顧客数の増加による売上増加を優先しましたが想定以上の顧客数増加とならず、その結果、売上総利益率が低下したことにより55,223千円(前事業年度比61.9%減)となりました。

(その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は373,286千円(前事業年度比18.2%増)、セグメント利益(営業利益)は30,936千円(前事業年度比19.6%減)となりました。

なお、当事業年度の出店状況は、次のとおりであります。

(単位：店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当事業年度末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	44	—	9	35
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	125	164	8	281
合計		169	164	17	316

(2) 当期の財政状態の概況

① 資産

当事業年度末における資産の残高は、前事業年度末と比較して139,202千円減少し1,352,642千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少83,037千円、有形固定資産の減少26,298千円、敷金及び保証金の減少22,268千円等によるものであります。

② 負債

当事業年度末における負債の残高は、前事業年度末と比較して44,807千円減少し290,788千円となりました。これは主に、買掛金の減少14,895千円、長期借入金の減少20,004千円等によるものであります。

③ 純資産

当事業年度末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して94,395千円減少し1,061,853千円となりました。これは、当期純損失の計上94,395千円によるものであります。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度と比較して83,037千円減少し465,911千円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は、79,660千円(前事業年度は49,308千円の収入)となりました。これは主に、増加要因として、減価償却費及びその他の償却費23,553千円等、減少要因として、税引前当期純損失77,607千円、仕入債務の減少額14,895千円、法人税等の支払額21,472千円等によるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果得られた資金は、16,611千円(前事業年度は14,174千円の支出)となりました。これは主に、増加要因として、敷金及び保証金の回収による収入17,528千円、リース債権の回収による収入4,584千円等、減少要因として、無形固定資産の取得による支出3,193千円、有形固定資産の取得による支出2,453千円によるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、20,004千円(前事業年度は20,004千円の支出)となりました。これは長期借入金の返済による支出20,004千円によるものであります。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	2019年 9月期	2020年 9月期	2021年 9月期	2022年 9月期
自己資本比率(%)	74.1	76.1	77.5	78.5
時価ベースの自己資本比率(%)	103.4	91.4	106.3	96.3
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	—	169.5	114.9	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	—	75.28	106.96	—

(注) 各指標はいずれも個別ベースの財務数値を用いて、次の計算式により算出しております。

自己資本比率 : 自己資本/総資産

時価ベースの自己資本比率 : 株式時価総額/総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率 : 有利子負債/営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ : 営業キャッシュ・フロー/利払い

※1. 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数(自己株式を除く)により算出しております。

2. 有利子負債は、貸借対照表に計上されている負債のうち、利子を支払っている全ての負債を対象としております。

3. 営業キャッシュ・フロー及び利払いは、キャッシュ・フロー計算書に計上されている「営業活動によるキャッシュ・フロー」及び「利息の支払額」を用いております。

4. 2019年9月期及び2022年9月期は営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスであるため、キャッシュ・フロー対有利子負債比率、インタレスト・カバレッジ・レシオは記載していません。

（4）今後の見通し

次期の見通しとして、商品につきましては、引き続き消費者にとって価値のある商品づくりを目指し、特に「三代目茂蔵」でしか購入することのできない、「茂蔵オリジナル商品」を中心に専門性が高く高付加価値商品の開発を強化し、お買い得感のある価格帯に設定することで売上高・利益の改善に努めてまいります。

店舗におきましては、「三代目茂蔵」としてのブランドのクオリティを向上させるべく、販売員の商品知識の向上や販売手法の強化、店舗毎の強化商品の設定や陳列方法の随時見直しなどについて、本部スタッフとのコミュニケーション強化に取り組むことで、消費者にとって魅力のある売り場づくりを引き続き推し進めてまいります。また、引き続き「朝市」を開催し、様々なカテゴリーの商品をお買い得な価格にて提供することで、購買意欲の高い顧客層の獲得及び買上点数の増加を図ってまいります。

2023年9月期の業績予想につきましては、当社の売上高の86%以上を占める小売事業においては、昨今の天候不順事象の増加から、その影響を想定することが年々困難となっており、加えてコロナ禍における見通しも不透明であるため、業績見通しの試算値等を公表することも当社の投資判断に誤解を生じさせる可能性が高いと考えております。

したがって、現段階におきましては業績見通しを公表できませんが、2023年9月期第2四半期累計期間につきましては同第2四半期中、及び同通期につきましては同第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をしてまいります。また、月次における既存店売上高等の情報開示につきましては、さらなる充実を図ってまいります。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社の事業は現在、日本国内に限定されており海外での事業展開がないこと、また国内の同業他社との比較可能性を確保するため、当面は日本基準にて財務諸表を作成する方針であります。

なお、将来のIFRS（国際財務報告基準）適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	548,948	465,911
売掛金	66,392	—
売掛金及び契約資産	—	61,997
リース債権	4,584	2,908
商品	37,633	37,239
貯蔵品	580	830
前払費用	27,853	25,178
その他	11,170	16,023
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	697,135	610,058
固定資産		
有形固定資産		
建物	529,715	515,139
減価償却累計額	△466,307	△472,281
建物(純額)	63,407	42,858
構築物	59,758	59,386
減価償却累計額	△55,295	△55,557
構築物(純額)	4,462	3,829
機械及び装置	4,656	4,656
減価償却累計額	△3,538	△3,813
機械及び装置(純額)	1,117	842
車両運搬具	7,730	8,881
減価償却累計額	△6,522	△7,232
車両運搬具(純額)	1,207	1,649
工具、器具及び備品	187,710	169,817
減価償却累計額	△174,291	△161,679
工具、器具及び備品(純額)	13,418	8,137
土地	562,970	562,970
有形固定資産合計	646,586	620,287
無形固定資産		
ソフトウェア	2,033	3,915
電話加入権	439	439
無形固定資産合計	2,473	4,355
投資その他の資産		
出資金	243	243
破産更生債権等	186	186
長期前払費用	1,027	390
敷金及び保証金	139,585	117,317
リース債権	2,908	0
その他	1,896	0
貸倒引当金	△197	△197
投資その他の資産合計	145,650	117,941
固定資産合計	794,710	742,584
資産合計	1,491,845	1,352,642

（単位：千円）

	前事業年度 (2021年9月30日)	当事業年度 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	170,068	155,173
1年内返済予定の長期借入金	20,004	20,004
未払金	46,429	44,242
未払費用	39,413	36,171
未払法人税等	18,661	14,218
預り金	1,965	1,928
流動負債合計	296,542	271,738
固定負債		
長期借入金	36,654	16,650
長期預り保証金	2,400	2,400
固定負債合計	39,054	19,050
負債合計	335,596	290,788
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金		
資本準備金	120,340	120,340
その他資本剰余金	106	106
資本剰余金合計	120,446	120,446
利益剰余金		
利益準備金	17,094	17,094
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	59,603	△34,791
利益剰余金合計	76,698	△17,697
自己株式	△40,896	△40,896
株主資本合計	1,156,249	1,061,853
純資産合計	1,156,249	1,061,853
負債純資産合計	1,491,845	1,352,642

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
売上高	3,022,641	2,791,296
売上原価		
商品期首棚卸高	38,025	37,633
当期商品仕入高	2,015,361	1,895,684
合計	2,053,386	1,933,318
他勘定振替高	79	91
商品期末棚卸高	37,633	37,239
売上原価合計	2,015,673	1,895,988
売上総利益	1,006,968	895,308
販売費及び一般管理費	970,466	956,139
営業利益又は営業損失(△)	36,501	△60,831
営業外収益		
受取利息	18	12
未払配当金除斥益	415	—
受取保険金	—	200
その他	247	145
営業外収益合計	681	358
営業外費用		
支払利息	468	328
その他	0	5
営業外費用合計	468	334
経常利益又は経常損失(△)	36,714	△60,807
特別利益		
固定資産売却益	—	145
特別利益合計	—	145
特別損失		
固定資産除却損	193	0
減損損失	2,151	6,438
店舗閉鎖損失	0	10,507
特別損失合計	2,345	16,946
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	34,368	△77,607
法人税、住民税及び事業税	21,312	16,787
法人税等合計	21,312	16,787
当期純利益又は当期純損失(△)	13,056	△94,395

（3）株主資本等変動計算書

前事業年度（自 2020年10月1日 至 2021年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,000,000	120,340	106	120,446	17,094	46,547	63,641
当期変動額							
当期純利益						13,056	13,056
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	13,056	13,056
当期末残高	1,000,000	120,340	106	120,446	17,094	59,603	76,698

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	△40,896	1,143,192	1,143,192
当期変動額			
当期純利益		13,056	13,056
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			—
当期変動額合計	—	13,056	13,056
当期末残高	△40,896	1,156,249	1,156,249

当事業年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計
当期首残高	1,000,000	120,340	106	120,446	17,094	59,603	76,698
当期変動額							
当期純損失(△)						△94,395	△94,395
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	△94,395	△94,395
当期末残高	1,000,000	120,340	106	120,446	17,094	△34,791	△17,697

	株主資本		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	
当期首残高	△40,896	1,156,249	1,156,249
当期変動額			
当期純損失(△)		△94,395	△94,395
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			
当期変動額合計	—	△94,395	△94,395
当期末残高	△40,896	1,061,853	1,061,853

(4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 (△)	34,368	△77,607
減価償却費及びその他の償却費	27,840	23,553
減損損失	2,151	6,438
受取利息及び受取配当金	△18	△12
支払利息	468	328
為替差損益 (△は益)	△2	△15
固定資産売却損益 (△は益)	—	△145
固定資産除却損	193	0
店舗閉鎖損失	0	10,507
売上債権の増減額 (△は増加)	△88	4,395
棚卸資産の増減額 (△は増加)	418	144
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,240	△14,895
未払金の増減額 (△は減少)	797	1,485
未払消費税等の増減額 (△は減少)	8,686	△5,758
その他	5,244	△6,297
小計	78,821	△57,877
利息及び配当金の受取額	18	12
利息の支払額	△460	△322
法人税等の支払額	△29,070	△21,472
営業活動によるキャッシュ・フロー	49,308	△79,660
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△17,282	△2,453
有形固定資産の売却による収入	—	146
無形固定資産の取得による支出	—	△3,193
敷金及び保証金の差入による支出	△1,090	—
敷金及び保証金の回収による収入	—	17,528
リース債権の回収による収入	4,650	4,584
その他	△452	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,174	16,611
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△20,004	△20,004
配当金の支払額	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20,004	△20,004
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	15
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	15,131	△83,037
現金及び現金同等物の期首残高	533,817	548,948
現金及び現金同等物の期末残高	548,948	465,911

（5）財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより、一部の販売取引について、従来顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客への販売取引における当社の役割（本人又は代理人）を判断した結果、代理人に該当する取引については当該対価の総額から第三者に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識する方法に変更しております。

また、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、当事業年度より「売掛金及び契約資産」に含めて表示しております。

この結果、従前の会計処理と比較して、当事業年度の売上高は110,712千円、売上原価は110,712千円それぞれ減少しております。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法による組替えを行っておりません。さらに、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる財務諸表への影響はありません。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うことといたしました。ただし、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日）第7-4項に定める経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前事業年度に係るものについては記載しておりません。なお、財務諸表に与える影響はありません。

（持分法損益等）

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、「三代目茂蔵」直営店による小売事業を中心に事業活動を展開しております。従いまして、当社は、「小売事業」及び「その他事業」の2区分を報告セグメントとしております。なお、「その他事業」は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントごとの会計処理の方法は「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。また、報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	財務諸表 計上額 (注) 2
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,706,932	315,709	3,022,641	—	3,022,641
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,706,932	315,709	3,022,641	—	3,022,641
セグメント損益	145,009	38,469	183,478	△146,977	36,501
セグメント資産	759,909	155,986	915,895	575,949	1,491,845
その他の項目					
減価償却費	22,879	2,090	24,969	1,852	26,821
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	16,355	—	16,355	927	17,282

(注) 1. 調整額の内容は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント損益の調整額は、各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額は、各報告セグメントには配賦していない全社資産であります。全社資産は主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金並びに管理部門に係る資産等であります。
 - (3) 減価償却費の調整額は、全社資産に係る減価償却費であります。
 - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、管理部門等に係る資産の増加額であります。
2. セグメント損益は損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当事業年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	財務諸表 計上額 (注) 2
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	2,418,009	373,286	2,791,296	—	2,791,296
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,418,009	373,286	2,791,296	—	2,791,296
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,418,009	373,286	2,791,296	—	2,791,296
セグメント損益	55,223	30,936	86,159	△146,991	△60,831
セグメント資産	683,795	173,590	857,386	495,255	1,352,642
その他の項目					
減価償却費	18,840	2,202	21,043	2,240	23,283
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	—	—	—	5,647	5,647

(注) 1. 調整額の内容は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント損益の調整額は、各報告セグメントには配賦していない全社費用であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額は、各報告セグメントには配賦していない全社資産であります。全社資産は主に報告セグメントに帰属しない現金及び預金並びに管理部門に係る資産等であります。
 - (3) 減価償却費の調整額は、全社資産に係る減価償却費であります。
 - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、管理部門等に係る資産の増加額であります。
2. セグメント損益は損益計算書の営業損失と調整を行っております。

【関連情報】

前事業年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

損益計算書の売上高に占める割合が10%を超える顧客がないため、記載を省略しております。

当事業年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

損益計算書の売上高に占める割合が10%を超える顧客がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	小売事業	その他事業	全社・消去	合計
減損損失	2,151	—	—	2,151

当事業年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	小売事業	その他事業	全社・消去	合計
減損損失	6,438	—	—	6,438

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
1株当たり純資産額	81.67円	75.00円
1株当たり当期純利益金額	0.92円	6.67円

- (注) 1. 前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。
2. 当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。
3. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	当事業年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)
当期純利益金額又は当期純損失(△) (千円)	13,056	△94,395
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益金額又は当期 純損失金額(△)(千円)	13,056	△94,395
期中平均株式数(株)	14,157,800	14,157,800

(重要な後発事象)

該当事項はありません。